

令和7年度

令和7年7月17日(木)発行

東京都立清瀬特別支援学校

校長 稗田 知子

進路・キャリア教育部

きよせ進路キャリアだより No.2

日頃より本校の教育活動に御理解、御協力をいただき感謝申し上げます。

6月25日(水)に保護者対象の進路学習会を二部構成で実施いたしました。

第一部では、東京都立東久留米特別支援学校特別支援教育コーディネーター清水由起子主任教諭に「東京都立東久留米特別支援学校普通科における進路指導の取組について」と題して御講演いただきました。

第二部では、社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会相談支援センターひだまりの里職員西村純子様「相談支援事業所の役割及び高等部卒業後に利用できるサービス等について」御講演いただきました。

【都立東久留米特別支援学校普通科における進路指導の取り組みについて】

清水先生からは、都立東久留米特別支援学校普通科の教育課程(授業内容)や卒業生の進路先、小学部・中学部の高等部の違いについて御講演いただきました。以下、概要です。

普通科の教育課程には「職業」「作業学習」の授業があり、進路指導も行われます。自分自身を知り、将来の仕事や生活について考え、作業学習を通して、働く力やマナーを身に付けていきます。

1年生では、現場見学やミニ体験実習を行い、職業についての情報収集や自分に合った職業選択を目的としたインターンシップを行います。2年生からは、複数の事業所での現場実習が始まります。実際に体験し、自分に合った事業所を探し、選択していきます。高等部は社会に出る準備をする場でもあり、自己理解を深め、働くための体力づくりや生活を豊かにするために、余暇の過ごし方を学ぶことが大切です。

また、積極的に本人や保護者が仕事や福祉サービスについて情報を収集していくことが求められます。

将来を見据え、身に付けておくとういこととして、卒業生の話が紹介されました。

- (1)「自分の力では難しいことを理解し支援者へ『お願い』する必要性」
- (2)「チームで協力しあって仕事を行う大切さ」
- (3)「休みの日の気持ちの切り替え」

7月16日(水)の保護者会にて、小学部は学部保護者会、中学部は学年保護者会でも進路やキャリア教育についてお話いただきましたが、高等部進学に向け、選び、考え、どういう将来像を描いて進学するかが大切です。

東久留米特別支援学校の紹介

令和3年度開校

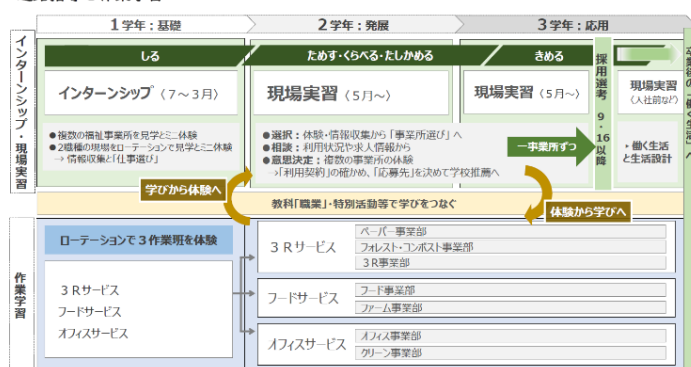
普通科と職能開発科のある**高等部**単独校
全校生徒270名 40学級



東京都立
東久留米特別支援学校



進路指導と作業学習



【相談事業所の役割及び高等部卒業後に利用できるサービス等について】

西村様からは、相談支援の役割と相談支援事業、実際の支援について事例をあげて御講演いただきました。以下、概要です。

相談支援の役割は、生活全般の相談を受け、本人の意向を確認して、その人の望む生活ができるように必要なサービスや専門機関を提案し、つなげていくことです。学齢期に利用できるサービスとして、放課後等デイサービス、居宅介護、短期入所（ショートステイ）、移動支援などがあり、将来に向けて早期から利用できる社会資源を知り、活用していくことが大切です。

例えば、高等部進学や卒業後に向けて、公共交通機関を一人で使うことができるように移動支援を利用して練習することもできます。家族の病気や出産、レスパイト、冠婚葬祭時などに、すぐ支援を受けられるよう、短期入所を経験しておくことも大切です。また、卒業後は放課後等デイサービスを受けられなくなるため、仕事を終えた後の夕方の過ごし方を考えておく必要もあります。

将来の暮らし方として、グループホームやシェアハウス、一人暮らしや施設入所などの選択肢がありますが、どんな環境や暮らし方が本人に合うのか、短期入所を経験することで分かることもあります。さらに、日中一時支援や短期入所、移動支援を利用して、自立に向けた経験を積むことや、障害年金や区分判定に医師の意見書が必要なため、主治医がいることも大切です。幼少期のエピソードの記録を取っておくと申請時に役立ちます。

学齢期にしてほしいこととして、以下の5点を挙げていました。

- (1) 好きなこと、楽しめることを見付ける。
- (2) いろいろな経験を重ねる。
- (3) 家族以外に本人をよく知る支援者を見つける。
- (4) 選択する機会を増やす。(自分で決める力を伸ばす。)
- (5) 本人の成長や状態に合った環境を考えること。

本人や家族が信頼（相談）できる応援団（支援者）を増やしていくことが大切です。誰でも経験がない中で、判断、選択することは難しいので、自分で選ぶ機会を増やして経験することが大切です。将来、大きな意思決定が必要となったときに、自分で選択でき、周囲にそれを伝えられ、本人が望む生活を送ることができるように、いろいろな経験をして、生活の中で選ぶ機会を増やしてほしいと思います。

講演後の質疑応答の時間に「ショートステイを利用する時期の目安はいつくらいが良いか」という質問には、小学部段階だと、受け入れてくれる施設は近隣にはないので、中学部からの利用が良いが、それも個人差があり、お子さんの実態などを見て施設などを決めることが大切であるとアドバイスをいただきました。

進路学習会終了後のアンケートには「小学部段階でも取り組めることなど、お話が伺えて良かった。」「高校生活、就職、福祉サービスの利用、これから向かう近い将来のイメージができたことでそれらに必要なことが知ることができた。」「今後やらなくてはならないことばかりで、一つずつやり始めようと思った。」「という感想が寄せられました。

児童・生徒の皆さんが望む「将来につながる今をどう過ごしていくのか」を改めて学び、考えることができた学習会になりました。御講演いただきました講師の清水由起子先生、西村純子様、そして学習会に御参加いただきました保護者の皆様に感謝申し上げます。

相談支援センターひだまり

- ▶ 社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会
清瀬育成園ひだまりの里きよせ 併設
清瀬市梅園3-1-30

- ▶ H29（2017）年5月 開設

- ・特定計画相談（18歳～）
- ・障害児計画相談（～18歳）
- ・一般相談
- ・自立生活援助



計画作成の視点③

